

令和7年度 ICTチーム PDCAサイクル



標準予防策が遵守され、院内感染(アウトブレイク)の発生が制御できる

- ・新型コロナウイルスやインフルエンザ等感染症の発生状況を職員に伝えて注意喚起する。
- ・患者のアセスメントを行い、患者の早期発見、濃厚接触者への対応(個室への隔離、検査、予防投与)を行う。
- ・職員の発生、院外発生患者の入院について、「感染症発生・感染症を疑う症状発現のモニタリング用紙」を用いて情報を収集し、アウトブレイクの発生を防止する。
- ・特に、手指を介した接触感染を防止するために、患者1人当たりの手指衛生回数目標を設定し、手指衛生の遵守を図る。

Plan



- ・富山県衛生研究所から毎週発行される感染症発生情報を、電子カルテトップページに掲載していつでも確認できるようにした。県内での感染症の流行状況を確認することで、検査の実施、入院時の個室隔離などを行う。
- ・感染防止リンクナース会では、患者1人当たりの手指衛生回数の目標値を18回と決めて、モニタリングした。また、CVケア時の手技の確認と同時に手指衛生の実施についても確認することや、WHOの5タイミングで手指衛生が実施できているかも確認している。

- ・WHOの手洗い方法のポスターを作成して、指の背を意識して消毒するように、周知している。

Do

院内感染(アウトブレイク)の発生を制御する

- ・同月・同病棟でMRSA、ESBL、が3例以上発生した病棟は、2病棟であった。MRSAが3回、ESBLが1回、CDIが1回発生した。手指衛生の遵守、環境整備の徹底を行ったことで、連続する月での発生はなかった。また、CDIも3症例の発生はあったが、それ以上の発生はなく、制御ができた。手指衛生の遵守、環境整備の徹底等で、院内感染(アウトブレイク)の発生を今後も制御する。

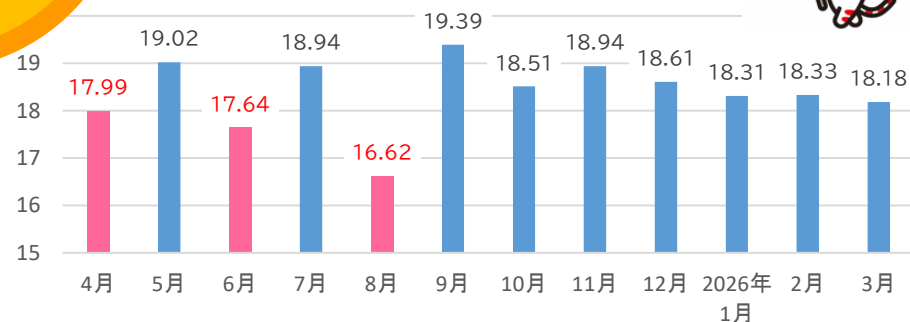


- ・中心静脈カテーテル関連感染の発生が11月以降、みられず、感染発生率は0.66対1000CVC使用日数である。PICCカテーテル挿入患者が増加していることも要因と考えられるが、手指衛生等のケアの徹底も血流感染の発生の制御に繋がった。今後もケアを遵守し、血流感染の発生の減少を目指す。

Action

Check

令和7年度 入院患者1人当たりの手指衛生回数



- ・目標の18回を満たしている月が9か月でみられた。令和7年度1年間の手指衛生回数の平均は、18.37回であり、目標を達成した。

